

令和8年度地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」カリキュラム

和歌山県立情報交流センターBig・U

		第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目
第1日	10月4日(日)	10:00～10:20	10:20～11:20	11:30～12:30	13:30～16:30		
		開講式 オリエンテーション	和歌山県の防災対策 県 危機管理局	避難所の設置と運営協力 和歌山大学教育学部教授 此松 昌彦	津波避難・避難所運営の ワークショップ 県 危機管理局		
第2日	10月25日(日)	10:00～11:00	11:10～12:10	13:10～14:10	14:20～15:20	15:30～16:30	
		防災士に期待される活動 日本防災士会和歌山県支部事務局長 奥田 恭久	和歌山県の気象特性と防災情報 和歌山地方気象台次長 高垣 正治	和歌山県をくり返し襲う地震・津波と発生予測 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山総合研究部門 総括研究主幹 宍倉 正展	津波のメカニズムと南海トラフ巨大地震について 国立和歌山工業高等専門学校教授 小池 信昭	防災と減災のむらづくり・まちづくり 和歌山大学システム工学部准教授 平田 隆行	
第3日	11月22日(日)	10:00～11:00	11:10～12:10	13:10～14:10	14:20～15:20	15:20～15:50	16:00～17:00
		災害医療 有田市立病院副管理者 島 幸宏	令和時代に期待される災害ボランティアの役割 一般社団法人ADI災害研究所理事長 伊永 勉	風水害・土砂災害等への備え 和歌山大学システム工学部准教授 田内 裕人	自主防災活動と地区防災計画 国立明石工業高等専門学校准教授 本塚 智貴	閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	防災士資格取得試験 (申込者のみ)
予備日	11月29日(日)						

		講 座 名	所 属 等	講師名	講 座 概 要
10月4日(日)	1	開校式 オリエンテーション	県 危機管理局 防災企画課		
	2	和歌山県の防災対策	県 危機管理局		南海トラフ地震などの地震・津波対策を中心に、和歌山県が進めている防災対策の取組について説明します。
	3	避難所の設置と運営協力	和歌山大学 教育学部 教授	此松 昌彦	避難所は災害時に住宅の被害を受けたり、被害を受ける可能性がある方が、一定の期間に避難生活する場所であり、避難場所とは違います。この避難所は地域住民だけではなく、高齢者など要配慮者や土地勘のない外国人や観光客が一時的に入ることもあります。そのため避難所運営は避難者を中心とした自治組織が望ましく、事前に避難所運営訓練などが行われています。具体的に避難所ではどんな活動をしているのかを学びます。
	4	津波避難・避難所運営のワークショップ	県 危機管理局		和歌山県オリジナルゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」をプレイし、グループで話し合います。
	5				
	6				
10月25日(日)	1	防災士に期待される活動	日本防災士会 和歌山県支部 事務局 長	奥田 恭久	防災士が活躍する場面、防災士に期待される役割等について、防災士会和歌山県支部の事例を用いてお話します。
	2	和歌山県の気象特性と防災情報	和歌山地方気象台 次長	高垣 正治	和歌山県の近年の気候変動や平成23年の台風第12号等による災害事例をもとに、和歌山県の気象特性についてお話しします。また、令和8年5月に運用が開始となった「新たな防災気象情報」及び、住民避難に役立つよう、警戒レベルと対応させた「キキクル」など防災気象情報の利活用についてご説明します。
	3	和歌山県をくり返し襲う地震・津波と発生予測	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門	矢倉 正展	和歌山県沿岸は数千年以上もの大昔から、南海トラフ地震・津波にくり返し襲われてきました。その痕跡は現在でも沿岸の地形や地層に残されています。その調査から過去の地震や津波の実態を解明することで、将来の予測に役立てることができます。本講座では南海トラフ地震の歴史や国が公表している確率予測の根拠などを解説し、過去の津波に関する最新の調査結果の紹介と、それを将来にどのように活かしていくべきかお話ししたいと思います。
	4	津波のメカニズムと南海トラフ巨大地震について	国立和歌山工業高等専門学校 教授	小池 信昭	東北地方で甚大な被害を起こした大津波について、その被害のメカニズムを解説します。また、南海トラフの巨大地震の想定モデルについて、なぜそのような大きな想定になったのか、その経緯を説明します。
	5	防災と減災のむらづくり・まちづくり	和歌山大学 システム工学部 准教授	平田 隆行	大災害からどのように立ち直るのか、予測される大災害にどのように備えるのか…。災害とまちづくりの歴史、被災して得た教訓、そして復興まちづくりについてお話しします。阪神淡路大震災では被災直後の街の様子を、復興まちづくりでは、北但地震(城崎)や、東日本大震災、紀伊半島大水害など各地の事例を紹介します。「災害文化」や「事前復興」をキーワードに、和歌山での防災まちづくりを考えていきます。
11月22日(日)	1	災害医療	有田市立病院 副管理者	島 幸宏	大規模な災害などで、突然かつ同時に多数の傷病者が発生したとき、いかに効率的かつ適切な医療を提供していくのか。災害発生時の緊急医療対応についてお話します。
	2	令和時代に期待される災害ボランティアの役割	一般社団法人 ADI災害研究所 理事長	伊永 勉	能登半島地震を契機に、政府・都道府県による専門家チームの派遣や企業・NPOによる避難所への支援が充実してきました。今年度の災害対策基本法の改正で、政府による被災者援護協力団体の登録・派遣という制度も始まり、一般市民ボランティアの活動が変容してきました。令和時代の災害ボランティア活動は、発災直後から中長期の避難所と在宅被災者の支援が重要になることから、市民の地域共助活動を見直し、率先して行動するボランティアの役割を元に、ボランティアの育成の方向性を解説します。
	3	風水害・土砂災害等への備え	和歌山大学 システム工学部 准教授	田内 裕人	風水害のうち、特に内水氾濫・外水氾濫のメカニズムや和歌山県内における特異な状況を紹介します。また土砂災害については、2011年の紀伊半島大水害の記録を紐解き、今後も発生しうる土砂災害の危険とその回避方法を学んでいきます。あわせて、平時、災害が切迫した状況、復旧復興を目指す状況それぞれの中で、住民に何ができるかについて考えていきます。
	4	自主防災活動と地区防災計画	明石工業高等専門学校 准教授	本塚 智貴	各地で行われている自主防災活動や地区防災系計画の事例を通じて、地域の防災活動の現状と課題や防災士に求められる役割について考えます。
	5	閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	県 危機管理局 防災企画課		
	6	防災士資格取得試験 (申込者のみ)	日本防災士機構		